



たいじゅ もり  
大樹の森

11月号

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/fudomaru/>



## 全校ウォークラリーから見た大切なもの

校長 山下 謙一郎

秋が深まり、夜の寒さが強まってまいりました。子どもたちが羽織る上着も少しずつ厚みのあるものになり、冬に向けて季節が移っていくことを感じます。

さて、不動丸小学校では、10月に全校ウォークラリーが行われました。たてわりグループで校庭や体育館、近隣の公園につくられたチェックポイントを巡りながら、クイズや課題に挑戦していきます。見事課題をクリアすると、キーワードの文字を一つもらい、最後にどんな言葉になるかをみんなで考えて当てる全校活動です。今年度は、たてわり委員会が中心となり、企画、運営に力を注ぐ姿が見られました。子どもたちの主体性が育まれる素晴らしい全校活動だと感じています。

しかしながら、この活動中には小さなトラブルも起きていました。例えば、グループで行動しているはずなのですが、ちょっとした瞬間にグループとはぐれてしまい、迷子になってしまう子もいます。迷子になったら職員室に来るということが約束としてあるのですが、低学年の子どもによっては、はぐれた時点でどうしていいかわからずに立ちすくんでいる子もいます。私も巡回している中でそんなシーンを見かけました。すると、別のグループの6年生が「どうしたの？」と優しく声をかけて、「そうかあ、じゃあ職員室に連れて行ってあげるね」と言いながら自分のグループの移動を一旦止めて、寄り添うように歩いて行きました。限られた時間の中でのグループ活動であり、ゲームの勝敗もかかっている中で、この6年生のとった行動は、この全校ウォークラリーで何が大切なのかを改めて感じさせてくれた姿でした。

今、コロナ禍でコミュニケーションが不足していると言われる時代ですが、子どもたちが学校に集まれば、そこには確かなつながりが生まれます。この6年生のように、誰かが困っている姿を見たときに、自分にできそうなことを考えて行動できる子どもたちが不動丸小学校には多くいると私は感じています。子どもたちが「学校」という場で学ぶことは、やはり大事なことだと信じて、私たちはこれからもがんばっていきたいと思います。